

酔画仙

2005(平成17)年4月2日鑑賞(OS劇場C・A・P)



監督＝イム・グォンテク／出演＝^{キム・ミンシク}崔岷植／^{アン・ソンギ}安聖基／^{ソン・イェジン}孫芸珍／^{ユ・ホジョン}柳好貞／^{キム・ヨジン}金汝眞／ハン・ミヨン
グ／^{チョン・テウ}チュン・テウ／^{チェ・ジョンソン}チェ・ジョンソン (エスパース・サロウ配給／2002年韓国映画／119分)

第3章

じっくり、しっかりと

……1880～90年代の朝鮮半島は甲申政変、東学農民革命、日清戦争、日本軍の侵入など激動の時代。そんな中、宮廷画家まで上りつめながら束縛を嫌い、酒と女を愛し、放浪の旅を続けた伝説の天才画家チャン・スンオブの生涯を描く感動作がこれ。韓国映画としてはじめてカンヌ国際映画祭で監督賞を受賞した名作だが、時代背景の勉強が不可欠……？



チャン・スンオブと水木讓司の共通点は……？

奥田瑛二が主演した映画『でらしね』(02年)は、日本の天才画家、水木讓司を主人公としたもの。日本の変わりものの画家(?)としては天才画家山下清があまりにも有名だが、この水木讓司もホームレスの画家で、かなりの変わり者。そして、この『酔画仙』の主人公である朝鮮時代の画家チャン・スンオブ(雅号:^{オウオン}吾園、1843 - 1897)(^{チェ・ミンシク}チェ・ミンシク)も宮廷画家にまで上りつめながら酒と女を愛し、放浪の旅を続けたかなりの変わり者……？ 天才の共通点は要するに「変わり者」ということだ。

このスンオブの最後は謎に包まれており、伝説上の大画家として韓国ではあまりにも有名な人物とのこと。さて、そんな日本人には全くなじみのない人物を主人公にしたこの映画の出来は……？ 『酔画仙』は2002年の韓国映画だが、イム・グォンテク監督はこの映画で韓国映画としてはじめてカンヌ国際映画祭で監督賞を受賞した話題作だ。

朝鮮における東学党の乱と明治日本

朝鮮戦争を真正面から描いた感動作『ブラザーフッド』（04年）の原題は『太極旗を翻して』。この「太極旗」が韓国の国旗と定められたのが1883年。そして韓国で東学党の乱（東学農民革命）がおこったのが1894年1月で、日清戦争はその年に始まった。1843年生まれのチャン・スンオブが壮年となった1880年代すなわち19世紀後半の時代、朝鮮は満州族の国家で崩壊寸前の清国と1868年に明治政府を樹立した日本（大日本帝国）との間で否応なく揺れに揺れる状況におかれていた。この時代の日本・中国・朝鮮の近代史は、通常中学・高校の日本史や世界史ではほとんど学ばないから、多くの日本人がこれを知らないはず。

『日露戦争物語』に注目！

私が知る限り、この時代のそれが最もよくわかるのは江川達也のコミック本『日露戦争物語』。これは有名な松山市出身の秋山兄弟の弟である海軍参謀、秋山真之を主人公としたもので、言ってみれば司馬遼太郎のベストセラー小説、『坂の上の雲』のマンガ版のようなもの。これは現在15巻出版されているが、前半の3、4巻はこの時代の日本・清国・朝鮮の歴史を前提とした物語で実にわかりやすく描かれている。是非このコミック本から多くのことを学んでほしいものだ。

まず『日露戦争物語』3巻32号の「甲申政変」では、朝鮮王である高宗の妃、閔妃^{ミンピ}を中心とする守旧派を追いおとしたうえで、清国から独立し一気に開化を図ろうとした金玉均をリーダーとしたクーデターである甲申政変が成功し、新政府を樹立していく様子がイキイキと描かれている。そして4巻の33号「策士」、34号「袁世凱」、35号「明日」、36号「敗走」までには、後にラストエンペラーとなる清国皇帝^{フギ}の溥儀を追いおとして、中国皇帝を名乗る袁世凱^{エンセイガイ}が派遣した李鴻章^{リコウショウ}を司令官とする清国軍と朝鮮半島に進出してきた日本軍の間で揺れ動く朝鮮の姿が詳しく描かれている。

これぞ天才！

チャン・スンオブは、卑しい身分ながら子供の頃から絵の才能を発揮していた

少年。「これぞ天才！」とビックリする出来事は、夜中に1度だけローソクの火を頼りに盗み見た中国の明の時代の絵「水仙梅雀図」を、記憶だけにもとづいてそっくりそのまま描いたこと。これには、スノオプの才能を見込んで下働きとして住まわせていたイ・ウンホン通訳官（ハン・ミョング）もビックリ。こんな才能を見込んだイ通訳官は、絵画の大御所であるヘサン先生の下にスノオプを弟子入りさせた。教養を重んじるヘサン先生は「描く前に考えよ」とスノオプに教えたが、まだ若いスノオプはなかなかそこまでは理解できない……？ スノオプの天才性は明らかだが、他方でその反逆性と放浪性も明らか。30代、40代、50代と年齢を重ねていく中、スノオプはどのように変わっていくのだろうか……？

私と絵画——水墨画よりは油絵……？

私は小学生の頃写生大会が大好きだったし、七夕祭りの絵画コンクールなどに応募して金賞や銀賞を何回ももらったことがある。そして中学校に入ると、授業で油絵があったため、宗教画などをよく描いていた。大学に入ってから、1人の女の子をめぐる対決(?)した同級生の男が絵が好きだったので、競争するかのよう描いたことも……。もちろんそんなことで勝負はつかなかった(?)が、その絵は今も事務所のロッカーの中に……。

このように私は、油絵はたくさん描いていたが、水墨画はどうも……。私は、和室にかけられている掛け軸などには全く興味がなかったから、水墨画を鑑賞する目はからっきしダメなはず。しかし2000年夏にはじめて中国の大連・瀋陽・旅順へ旅行した時からずっと続いている中国旅行のおかげで、少しは中国の水墨画についての知識や鑑賞眼も身につけてきた……。西安でも北京でも、そして桂林や杭州でも、中国へ旅行すると必ずこの手のおみやげ店(?)へ行くから、値段もホドホドわかるとともにそれを観る目も肥えてきた……。ホンマかいな？

スノオプの心の女性たち その1

スノオプがイ通訳官の屋敷に住み込みで働いていた時に一目惚れしたのが、イ通訳官の妹のソウン（ソン・イエジン）。少し頭の病があるとのことだったが、これがかなりの美人。しかし、身分の低いスノオプには所詮高嶺の花で、ソウン

は結局は良家の男のもとに嫁いでいくことに。もっとも嫁ぎ先で大病を患い、実家で静養しているソウンと再会できた時、ソウンの頼みでスノオブが描いたのが1羽の鶴の絵。これは……？

放浪するスノオブが出会い心の支えとなったのは、没落した貴族すなわち両班^{ヤンバン}の娘で妓生^{キーセン}をしている女性メヒャン（ユ・ホジョン）。メヒャンと一夜を共にしたスノオブは、メヒャンの頼みによってメヒャンの純白のチマチョゴリに梅の花を描いた。メヒャンは天主教の信者だったため、1866年の天主教徒迫害の動きが始まると官憲から追われる立場に……。そんなメヒャンとスノオブが再会できたのは、50代になったスノオブが漢陽（ソウル）に戻ってきた時だった。当然メヒャンも同じように年を経ていたが、メヒャンが趣味でつくったという素朴な壺には魅力的な味が……。その壺の魅力に惹かれたスノオブは山奥の窯元に赴き、壺に絵を描いた。そして、若い陶工の「火が壺を作るのです」という言葉を聞きながら、美しい壺の誕生を見ていたスノオブは……？

スノオブは生涯まともな結婚をしていないし、子供もいない。そしてこの映画のラストの説明では「最期は仙人になった」と言われており、その生涯はまだまだ謎に包まれたままとのこと。しかしそんなスノオブも、一時はジノン（キム・ヨジン）と同居し、ジノンは何かとスノオブの世話をしていた様子。そして、このジノンも妓生^{キーセン}の娘。多分ジノンは天才画家と言われているスノオブに対して何かを期待していたのだろうが、わがまま放題で何も与えてくれないスノオブに対して愛想を尽かし大ゲンカに……。しかし、スノオブもやはり長年なじんだ女には愛着があったのか（?）、ある時、ジノンが欲しがっていた立派なタンスを買って久しぶりに家に帰ってみると……。まあ、変わり者の天才画家スノオブだから、そうそう普通の恋愛関係は続かないしそれが成就することがないのも当然……？

ホントに泥酔状態で絵が描けるの？

この映画にはスノオブの天才ぶりを示す面白いシーンがある。それは、悩みに悩んで大酒をくらい、ジノンからボロクソに言われながら、泥酔状態の中で墨を直接手の指につけて描いた絵。本人はそれを描いたことを全く覚えていないのだから、翌朝起きてこの絵を見た時、スノオブはジノンが男を連れ込んだと誤解し

たのもやむをえない……。そんなドタバタ劇の中で見せる、スノオプの天才ぶりは実に面白い……。

宮廷画家は窮屈……？

スノオプの画家としての実力が認められ次第に名声が高まる中、スノオプはヘサン先生やその弟子らとともに長官の誕生日を祝う会に招かれ、その宴席の中で、松と鶴を中心とした「松栄鶴寿」の絵を描くことに……。そして与えられた課題は「可冠振作」。ところが長官の命令はヘサン先生をさしおいて「スノオプが先に筆を取りなさい」というもの。スノオプは「ヘサン先生より先に描けません」と言ったものの、長官の命令には逆らえない。張りつめた雰囲気の中、見事な鶏冠を描いたスノオプだったが、さてその後は……？

ヘサン先生は「お前が許しを請う必要はない」と言ってくれたものの、スノオプを妬む弟子たちは「遠慮を知らない奴は最低だ。同門の義理に背きやがって。師匠の面子をつぶした奴は2度と来るな」とスノオプを罵倒。このように、とかく宮廷画家は窮屈でかなわん……？

韓国を代表する俳優アン・ソング

韓国を代表する俳優を1人あげよ、と言えばそれは多分満場一致でアン・ソングだろう。最近『武士 (MUSA)』(01年)で弓の名手、隊正チンリブ役ですばらしい演技を見せたし、古くは『ディープ・ブルー・ナイト』(85年)や『神さまこんには』(87年)など、若き日のアン・ソングもすばらしい

その韓国を代表する名優アン・ソングが、『酔画仙』では開化派の学者キム・ビョンムンに扮して、スノオプの少年時代から晩年まで一貫してスノオプの成長に関与している。キム先生は1850年代の朝鮮において、古い王朝の勢力争いを見限り、新しい時代のあり方を模索している開化派の学者。日本で江戸時代の末期、尊皇 VS 佐幕の対立の他、開国の是非をめぐる血なまぐさいバトルが展開されたのと同じようなものだ。子供時代のスノオプの絵の才能を見抜き、イ通訳官に預けたのがこのキム先生。そしてスノオプに吾園という雅号を与えたのもキム先生なら、放浪をくり返すスノオプに「本物の芸術家になれ」と厳しく論じたのも

キム先生。しかし激動する時代は、開化派のキム先生が考えるほどスナリとは進展せず、東学農民運動は武力で鎮圧されたうえ、日本軍が進出し、キム先生は今や立派な政治犯として危険な立場におかれていた。

最後の弟子も東学農民運動に身を投じたため、1人で放浪の旅を続けるスノープは、海辺にある小さな村で貝を採っているキム先生を発見した……。「開化もしょせんつかの間の夢。今後は自立しなければ。日本の勢力に頼って三日天下は取れても我が民族に未来はない」「輔国安民、それもまたはかない夢だったのだ。立ち上がったまではよかったが、天命も時の運ということだ。結局外国に付け入る隙を与えてしまった。我々に力があつたら……」と述べるキム先生は、既に開化のリーダーとしてのエネルギーは失っていたが、「私はここが好きだ」「私は子供達を教えながら暮らしているよ」と静かに語る姿がピッタリの晩年だった。こんなキム先生をアン・ソングは見事に演じ、スノープをうまくサポートしている。

韓国政治の不思議さ……？

2003年2月の大統領選挙で金大中キムデジュンに代わって大統領に選ばれたのが現在の盧武鉉ノムヒョソン。そして続く2004年4月の国会議員選挙では、63%の国会議員が入れかわるという大変動が起こった。その結果、従来の新韓国党と民主党はハンナラ党に、従来の与党であった新千年民主党は「開かれたウリ党」に大きく衣がえし、韓国の政治情勢は大きく塗りかえられた。

他方、韓国の歴代大統領は退任した後は不幸続き（？）で、全斗煥チョンドウファン元大統領は光州事件や不正蓄財の罪で死刑判決を受け（減刑の後、特赦）、盧泰愚ノテウ元大統領は政治資金隠匿と光州事件の罪で懲役刑を受けた（後、特赦）。そして金大中キムデジュン元大統領も、5年間の任期切れとなる2003年2月24日の直前には、南北首脳会談前の北朝鮮への5億ドルの送金疑惑が浮上し、2月14日金大中キムデジュン元大統領は政府の関与を認めることに……。結果的に2003年6月、盧武鉉ノムヒョソン大統領の指示によって捜査は中止されたが、韓国では退任前の大統領の不幸はついてまわるもの……？

遠くて近い国そして近くて遠い国

韓国は2000年6月以降日本の歌が解禁され、第4次日本大衆文化開放によって

自由になった。そして最近『冬ソナ』ブームもあり、日韓交流は急速に進んでいった。しかしここにきて突如情勢は一変し、急激な反日ムードいっぱい。そのきっかけは今年3月島根県が制定した「竹島の日」条例。蘆武鉉大統領は、大統領としての支持率低下と与党開かれたウリ党の過半数割れを挽回するためには、反日キャンペーンの展開が一番と判断した様子。その結果、蘆武鉉大統領の求心力は一時的に強化されているが、さてそのマイナス効果は……？ まさか日米安保条約で日本と固い絆を結んでいるアメリカとも本気で縁を切るつもりでは……？ もしそうだとすると、第2の朝鮮戦争が起これば一体どうなるの？ ホントに韓国は、日本にとって遠くて近い国、そして近くて遠い国……。

チェ・ミンシクの熱演に拍手！

主人公チャン・スンオプを演ずるのは、『シュリ』（99年）で北朝鮮特殊部隊の指揮官を演じて強烈な印象を残し、『オールド・ボーイ』（03年）ではアツと驚くアクションを含むものすごい演技を見せたチェ・ミンシク。その彼がこの映画では、20代から50代までの天才画家スンオプの波乱に満ちた人生をホントに熱演している。あの水墨画を描くタッチをどのように撮影したのかはよくわからないが、その撮影技術のうまさも含めて画家スンオプの筆力にまずは拍手！ そして自らの水墨画の完成に悩み、女に悩み、そして大酒をくらう毎日を過ごす（？）スンオプの苦悩する人間像を見事に演じたチェ・ミンシクに大拍手！

土、日連続で観た『シュリ』の両雄

私がこの『酔画仙』を観たのは4月2日の土曜日なら、翌3日の日曜日に観たのがソン・ガンホ主演の『大統領の理髪師』。『酔画仙』のチェ・ミンシクと『大統領の理髪師』のソン・ガンホは、ともに大ヒット作『シュリ』で、北の特殊部隊の部隊長と韓国の情報部員として敵味方に分かれた両雄であり、ともに韓国を代表する名優。たまたまの偶然とはいいいながら、こんな連続する土日のタイミングで韓国の名優2人にスクリーン上でお目にかかれるとは……？ これも真面目に映画館通いを続けている映画評論家としての努力のおかげか……？

2005(平成17)年4月6日記